細川歯科医院

所在地●東京都板橋区大和町18-10　田中ビル2F
総面積●約74㎡(約22.5坪)
ユニット●3台
スタッフ●歯科医師1名、歯科衛生士2名+非常勤1名、歯科助手2名
患者数●1日約20名
診療時間●10：00～20：00、土曜日のみ10：00～13：30、休診は木曜・日曜・祝祭日

細川 仁

profile
院長の細川 仁先生は東京都生まれ。1995年、日本大学松戸歯学部卒。2年間、同大学保存修復学教室にて勤務。その後、開業歯科医院での勤務歴を経て、2000年に現在地で開業。

常に研鑽・成長を続ける“アットホームで通いやすい”歯科医院

居抜きで開業して14年

板橋本町駅から徒歩1分、江戸時代の五街道の一つである中山道沿いに細川歯科医院はある。前院長から引き継ぎ、2000年に居抜きで開業した。

「大学の先輩からの紹介で、この場所にあった前医院を2年ほど手伝い、ご縁があって前院長の意思を継いで、細川歯科医院を開業しました」

20～70歳代までと幅広い年齢層が来院している。

「場所柄なのか、比較的中高年の方が多く来院されます。子どもの患者さんは少ないため、治療内容としては歯周病や義歯が多いですね。ただ最近は、医院のホームページを充実させていたので、歯科への意識の高い、若い患者さんも増えてきました。

この周辺は歯科医院が多いですが、激戦区とは感じていません。前院長から引き継いだ患者さんもいますし、これまでの患者数をみると徐々に増えています。歯科医院がそれぞれ独自の方針・理念をもてば、患者さんの取り合いにはならないと思います」

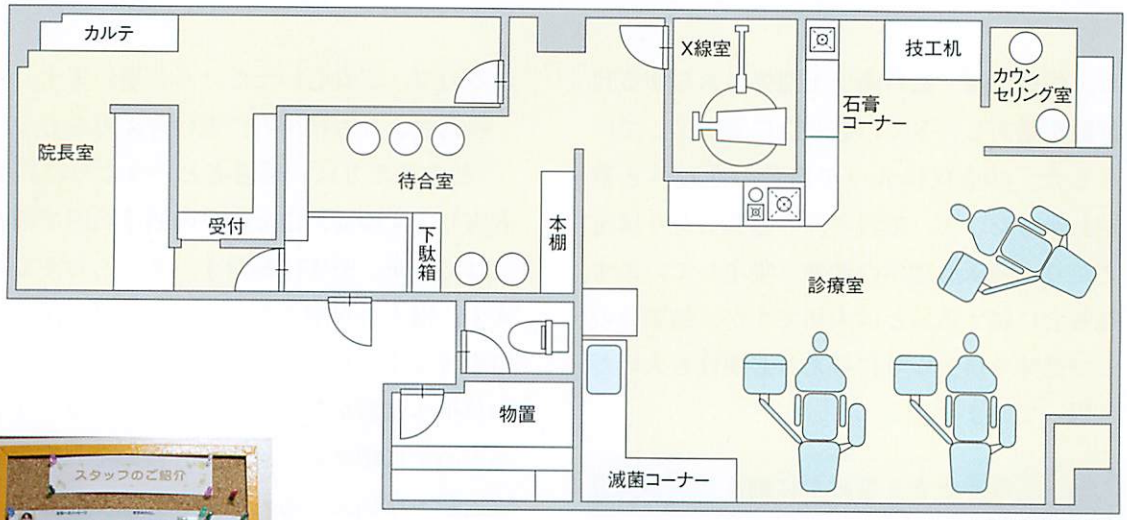
“広く浅く”が自分の役目

“広く浅く”の診療を行っている。

「当院が目指しているのは、“ごくごく普通の歯科医院”です。そのため、診療内容は、う蝕、歯周病、義歯、インプラントや審美治療まで歯科全般ですね。一般開業医としては、“広く浅く”の診療がメインだと考えてます。1つの診療科目だけに特化した専門医になるのではなく、“浅く”の部分をいかに“深く”するかが自分の役目だと思って、“痛かったら、すぐに対応できる歯科医院”として診療をしています。どんなときでも困っている患者さんを温かく迎え入れることで、相談しやすい、行きやすい、アットホームな雰囲気にあることが当院の特徴です」

毎日の臨床のなかで、楽しみをみつけるようにしているという。

「得意な分野は根管治療と歯周治療です。根管治療は根管充塡後にX線写真を撮った際、いかに精確にできているかを確認するときが楽しいですね。歯周治療は原因を探り、治療



▲院内見取り図

▲スタッフの紹介板。待合室で待つ間、多くの患者が目を通している

▲受付。写真左上のモニターに、細川先生の考えをまとめたスライドを流している

▲待合室。本棚には細川先生が愛読している思想書が並ぶ。患者とのコミュニケーションの1つになっている

のアプローチ方法を考えるのが難しいですが、“難しいから考える”ことがおもしろいと感じています」

“心身一如”（心と身体の働きを一体として考えること）の言葉を念頭においている。

「歯周病は生活習慣病と捉えてアプローチしています。それは、故・片山恒夫先生の影響によるところが大きいですね。最近ではう蝕もそのように考えて治療しています。また、“心身一如”の言葉があるように口腔内のみならず、心の分野も学ぶ必要があると感じ、現在は臨床心理学を勉強しています」

臨床心理学を学び始めたのは、患者とのかかわりを考えるうちに、いろいろな個性があることに気づいたから。

「患者さんとうまく付き合うためには、どのようにしたらよいかを考えていました。最初に疑問をもったのが、鬱や発達障害、統合失調症の境界線についてです。誰もが発症し、診断される可能性があり、症状の強弱はあっても、その境界線がわかりません。その部分を深く理解するため、現在放送大学で臨床心理学について学んでおり、臨床心理士の資格取得に向け、大学院を目指して勉強中です」

若いころはたくさんの講演会やセミナーに参加していた。

「30歳代はすべての診療科目を底上げするため、がむしゃらに講演会に参加していまし

た。歯科医師・歯科衛生士関係のあらゆる刊行物を購入し、多くの勉強会に顔を出していました。40歳代に入って自分の進むべき道がわかったいま、歯科関係の勉強会からは遠ざかり、臨床心理学の勉強に集中しています。勉強会に属することは大切ですが、勉強会のもつ意味を自分なりに考える必要性も大切だと思っています」

華やかさを求めずに細々と

感染予防対策に力を入れている。

「今後、日本ではグルタルアルデヒドが使用禁止になることを見越してEOG滅菌を導入し、そのために作業主任者と作業環境測定士の資格を取得しました。また、ウォッシャーディスインフェクター（ミーレ社）も導入し、内装も変えました。人の手に触れるところは患者さんごとにラッピングし、TEK作製時に使う鉛筆1本まで滅菌しているので、当院の滅菌レベルは高いと自負しています。

患者さんも滅菌について意識が高いようで、アンケートで『ラッピングがしてあり、清潔だと思った』という声や、ニュースでタービンの問題が流れた次の日にはいろいろと質問をされました。当院はしっかり滅菌を行っているので、ご安心いただけると思います」

経営者よりも技術者に近い考え方をもつ。

「私の考え方は、経営者というよりは技術者寄りですので、“自分の目の届く範囲で細々ではあるが、堅実に経営すべき”と考えています。借入金が増えれば増えるほど、医院経営も苦しくなりますし、結果として患者さんの負担へと繋がります。そのため、華やかさを求めずに細々と、患者数も自分で対応できる人数から始め、それに応じて徐々にスタッフも増やしていきたいと考えています」

開業当初は自分の理想を追い求め、スタッフに負担をかけていたが、考え方を変えたことでスタッフの定着率が上がった。

「スタッフ教育に関しては、30歳代前半はチーム医療を求めていました。患者さんの流れをシステム化すべく、院内での勉強会や本読みなどを行っていました。私は興味があるものは納得するまで徹底的に追い続ける性格なので、理想とする診療所を早く作り上げるため、スタッフにもそうするように押しつけていました。当然、志はスタッフよりも院長のほうが高いので、求め過ぎた結果、うまくいかず、スタッフが離れていきました。

そこで、“チーム医療でみんなのレベルを

▲滅菌コーナー。滅菌対策に力を入れ、作業主任者と作業環境測定士の資格を取得

▲3台のユニットで、自分で対応できる範囲の診療を行っている

▲細川先生の診療の様子。気兼ねなく話せる柔らかな雰囲気を大事にしているという

▲細川歯科医院のみなさん。どんなときでも医院全体で温かく迎え、優しく接している

それぞれ上げる”という考えをやめ、自分だけが徹底的に突き進む道を選びました。スタッフはサポートにまわってもらい、自分一人ですべて対応したところ、スタッフとの関係がよくなりました。スタッフの定着率も上がり、現在のスタッフは長い人で7年、短くても3年と勤務歴が長くなってきました。自分のことを理解してくれるスタッフが入ってくれたのが大きいと思いますし、また私がサポートしてもらったことへの感謝の気持ちをもてるようになったからだと思います」

経験から培った感性を大切に

若い歯科医師へのメッセージ。

「患者さんと私たちが同じ人間同士として同じ空間で出会い、かかわり合い、相互関係をもつことを『リレーション』といいます。歯科界においては従来のエビデンスだけではなく、その人独自の生き方や生活の仕方、歴史を紡いでいることを尊重するナラティブ、そしてこのリレーションの3つを取り巻く関係性を作り上げていく必要があります。多くの患者さんと接した経験から培った第六感をも含む感性をぜひ大切にしていただき、さらに研ぎ澄ませていってほしいですね」

今後の抱負は。

「現在44歳です。2年後に通信制の大学院を受験し、50歳ごろに臨床心理士の資格を取得したいです。30歳代での歯科学、40歳代での臨床心理学、50歳代ではそれらを融合させ、患者さんを健康へと導く手助けをしていきたいです。私のなかでのいまの歯科の位置づけは、歯科のなかに一部心理臨床が含まれるかたちですが、60歳代ではそれを逆転させ、心理臨床のなかに一部歯科が含まれるかたちになっているかもしれません。

多くの歯科医師が困っている患者さんを救うべく両手を差し伸べますが、そこからこぼれ落ちる患者さんも決して少なくありません。そういった方たちをも受け止められるよう、自分に何が必要で、何が大切かを考えて勉強することが今後の生き方だと思っています。学問による自己成長だけを求めるのではなく、自分自身の器を磨くことも含んでいます。大学院に入ること、臨床心理士になることは、その一通過点にすぎません。いまの自分に課せられた使命のため、勉強に集中するのみです」

穏やかな口調のなかに歯科医療への情熱がみえる細川先生。地域に根ざした“普通の歯科医院”の活躍は、これからも続く。